

## 2 アカデミック・ライティングとは

アカデミック・ライティング(academic writing)とは、学術的文章を書く技術、書く行為あるいは書いたもののことを指す。学術的文章には、授業で課せられるレポートをはじめ、実験や実習のレポートが含まれ、学年が進行すれば卒業論文、修士論文、博士論文などに発展する。大学や大学院で学生に課される文章はアカデミック・ライティングの特徴やルールに<sup>かな</sup>適っている必要がある。

### 2.1 論理的にわかりやすい客観的な文章をめざす

アカデミック・ライティングを一言で言うと、読者が筆者の論理的な主張を正確に理解して、それを客観的に検証し得ることをめざすものである。

◎論理に飛躍のない文章：アカデミック・ライティングでは、専門的な内容を論じたり正解のない複雑な問題についても論じたりする。文章が多少くどくなっても、読者が行間を読んで推察することなしに、内容が正確に伝わらなければならない。誤解されないことが最も重要である。

◎客観的な評価に堪える文章：アカデミック・ライティングでは、個人的な感情や感想は不要で、他人の考えと自分の考えを混ぜないで明確に区別して書き、自分の主張を裏付ける根拠(先行研究、文献やデータなど)を引用(次章参照)して、客観的な評価に堪え得ることが求められる。

### 2.2 作文・感想文とは異なる

文章には物語、日記、手紙など様々なジャンルがあり、小中高での作文や感想文のジャンルでは、自分の経験や思い、感じたことを書く。その表現法は自由で、文体も普段使っている話し言葉を用いた「です・ます」調が多い。だがアカデミック・ライティングが求められるレポートや論文は別のジャンルであり、「だ・である」調で、後述の一定のルールに<sup>のっと</sup>則って書き、前節で述べた特徴を備えたものでなければならない。

授業のレポート課題によくある「○○について述べよ・論ぜよ」という指示を、「○○について思い付くままに何でも書いてOK」と勘違いしてはいけない。そうではなく、「○○について自ら『問い』を設定して、その『答え』を一貫した論理で、引用した根拠情報を基に、説明する」ことが要求されている。